

大腸癌におけるFanconi貧血経路関連遺伝子およびDNA修復関連遺伝子の発現について

(九州大学第二外科において1994年から2008年まで大腸癌を切除した方を対象)

【はじめに】

5-FUはもっとも古くからさまざまな癌に対する抗癌剤として利用されてきました。その感受性を決めるDNA修復機構については十分に調べられておらず、Fanconi関連経路、ミスマッチ修復機構など、さまざまなDNAの修復に関する機構の関与が示唆されています。この各経路の相互関係はいまだ十分にわかっておらず、さらに研究がすすめば、将来、5-FUに対する耐性化の機序が解明され、大腸癌の患者さんに有益な結果となる可能性があります(図1)。

【研究内容】

当九州大学消化器・総合外科(第二外科)において切除された大腸の病変を使って、DNAの修復に関わる因子(Fanconi貧血経路関連遺伝子など)を同定する染色を行い、これらの蛋白の出現の程度を測定します。

この染色の結果と患者さんの背景を比較し、その因子が果たして大腸においてどういった影響を持つのか考察します。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究期間】

研究を行う期間は承認日から
平成24(西暦2012)年3月31日まで

【医学上の貢献】

この研究により大腸におけるFanconi関連遺伝子発現異常とがんの性質および予後との関連が示唆されれば、新しい予後因子などが明らかとなり、医学上の貢献はあるものと考えます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)
教授 前原 喜彦(責任者)
准教授 掛地 吉弘
大学院生 中西 良太

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

担当者 中西 良太

図1 DNA修復とがんとの関係

